

屋台研究45年 集大成

播磨の祭り屋台研究の第一人者として知られる姫路市飾磨区の粕谷宗関さん(72)が、研究の集大成となる「播州屋台蔵」(友月書房刊)を自費出版した。屋台研究を始めて45年。「今回で最後」と決めたという15冊目の今作は、特に後世に伝えたいと考える屋台文化の魅力をまとめた。

(谷川直生)

飾磨の粕谷さんが新刊

粕谷さんは、浜の宮天満宮(同市飾磨区須加)の近くで生まれ育った。幼い頃から身近にあった屋台に魅せられ、公務員を勤める傍らで研究を始めた。「灘のけんか祭り」で知られる松原八幡神社(同市白浜町)などにいくとも通い、その成果を順次出版してきた。

今作では、粕谷さんが発見した同神社の三つどもえ紋が、右回りから左回りへと変遷した経過を調査。その理由は不明というが、1828(文政11)年の祭礼絵馬と30(天

神社の紋変遷追う

保元)年の祭礼絵巻に描かれた紋の比較から、この時期に変わったとみられるとしている。

また、伝統的な布団屋根型屋台の構造を写真や図を用いて解説しているほか、名工の技術が光る彫刻の写真も掲載している。粕谷さんは「近年の屋台は伝統が薄れているものが多い。歴史を知り、伝統の素晴らしさを感じてほしい」と話す。

A4版、64ページ。50部刊行。残部わずか。福崎町立図書館や加西市立図書館で閲覧できる。交友プランニングセンター
☎078・303・0088



祭り屋台研究の成果をまとめた15冊目の本を自費出版した粕谷さん＝姫路市飾磨区